

新しい“支え合い”“支援”の在り方を模索

久留米らしい

重なり方デザイン事業

久留米の今

- ①重層的支援体制の整備が進む
- ②民間主導の“支え合い”が活発に
- ③まちづくりプレイヤーが「福祉」に視線

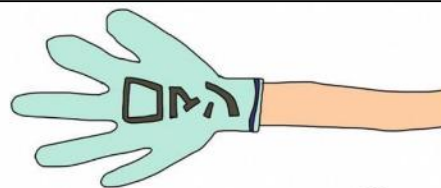
2年間でやってきたこと

- ・ 令和2年度「包括的支援体制構築事業」

⇒はじける文化と地域ロマン

- ・ 令和3年度「支え合うプラン取組推進事業」

⇒地域福祉NEO



はじける文化と地域ロマン

はじロマ会

ロマンを語る。オープンマインドの会
—15000分の1の共生社会—

15

実践

15000分の1の共生社会

第2木曜は**はじロマ会**



手探りと
気づき

手探りしてきたこと

- その人のメリットや立ち位置などが明確じゃない状況で誘うこと
- 目的が明確じゃないことが、地域共生社会につながるのではないか
- 本当の意味で「開かれたプラットフォーム」とは何か
- この感覚はここだけになっていないか
- ロマンが消費されないか。心に残っているか
- 閉鎖的になっていないか

気づいたこと

- ロマンを通すと人と人が一気に近づく
- “オープンマインド”がロマンの背中を押す
- ロマンはあらゆる力を持っている
- 誰もが“ロマン”を持っている
- ロマンはプラスの感情だけでない

開
か
れ
ず
ぎ
た
い



19

事業で検証してきたこと

オープンマインド (本音) の大切さ

⇒ 開かれすぎたプラットフォームで人の距離が縮まる

令和3年度
支え合うプラン取組推進事業

新創造プラットフォーム
「地域福祉NEO」



1. 推進メニューの提案・創出 (P4)

(2) プラットフォーム構築のコンセプト

① 新創造プラットフォーム「地域福祉NEO」

発想・視点
概念・思考

3つのNEO



地域福祉に根を × 地域福祉にネオ × 地域福祉に本音を

この街に住み関わる人達が、
混ざり合う中で
実感が生まれていく

この街に住み関わる人達が
暮らしの課題や習慣、
希望や幸福感を更新していく

この街に住み関わる人達が、
本音を伝え合えることで
生まれる

自分ごとの
支え合い

進化する
支え合い

深まる
支え合い

くるめ支え合うプラン

実践

1. 推進メニューの提案・創出 (P5)

(3) 事業の企画提案

② 実施する事業内容

地域福祉NEOを生み出す

4つの実施事業

1. っどう「新地福委員会」

運営チーム

2. はぐくむ「プラットフォーム未来会議」

若者

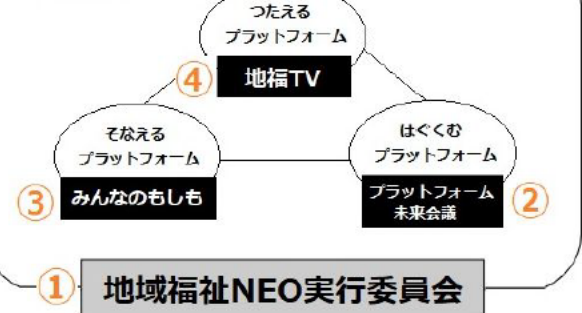
3. そなえる「みんなのもしも」

防災・感染症対策

4. ったえる「地福TV」

オンライン公民館型

事業概要



事業で検証してきたこと

地域福祉に必要な 3つのNEO

⇒「自分事に」して「更新し続け」て「本音を」出せる

事業で検証してきたこと

知識より意識
課題より可能性
解決より関係性

⇒地域福祉に必要な「関わりしろを増やす」入口を

事業で検証してきたこと

生活者として
一住民として
当事者として

⇒全ての住民が自分事として関わり合える手法を模索



支え合いの可視化も

「シャボン玉を作る」だけが目的のイベントを開催。突如としてこの場にできたコミュニティ。

改めて、必要な事業を再検討

違いに気付く

⇒ フォーマルとインフォーマルの間にある「差」

価値観

風土

視点

権限

役割

常識

制約

動き

使命感

責任感と柔軟性、信頼感と親近感。支援の常識、課題の捉え方。
さまざまな“スタンス”の 違いを実感した2年間だった。と思う

苦手な「旗印」を立てる

人と人、人と制度 関係性を捉えなおす

⇒ フォーマルとインフォーマルが融合。「支援」の在り方



人と人、人と制度の
関わりを捉え直す

公的な支援と住民同士の支え合いの力を融合
久留米らしい重なり方デザイン
事業受託者募集

仕様書できた。

令和4年度 久留米らしい重なり方デザイン事業 業務委託仕様書

1 目的

久留米市は、令和3年度から重層的支援体制整備事業[※]を開始した。初年度は、高齢・障害・子ども・困窮の4分野の関係機関などが重なり合い、支援基盤を整えてきた。しかしその基盤は「フォーマル」な組織を中心とした構成で、市内で活躍する多くの活動者や住民同士の支え合いの動きといった「インフォーマルな力」を十分に組み合わせることができていない。今後、少子高齢化や人口減少による行政の財政悪化、人や地域のつながりの希薄化など、地域を取り巻く環境は一層変化する。その中で、専門職や制度といった「フォーマルなサービス」と、地域や知合いが担う「インフォーマルな力」が融合する必要性は高まっている。

他方、日々の暮らしに目を向けると、さまざまな要因で生じた「小さなつまずき」を緩和・解消できないまま孤立し続け、複雑で解決困難な「課題」になるケースが散見される。そして、相談支援機関は、課題が複雑化・顕在化してから個別ケースとして関わり始める現状がある。そのため「地域の人の重なり方」の検討が欠かせない。人と人との重なり合いが「つまずきを分かち合える」「早期に気付ける」など課題の予防的措置となり、解決できない課題も緩和できる関係が生まれると考える。

本業務は、人と制度、人と人の関わり方の現状を捉え直し、「フォーマルなサービスとインフォーマルな力の重層化」を検討・実践。その結果として、地域での人と人との関わりの重層化も目指し、久留米らしい重なり方をデザインすることを目的とする。重層的支援体制整備事業の支援の充実につなげることで、「支え合いが見えるまち」として久留米市が内外で認知されるよう基盤を整えたい。

※市町村が創意工夫をもって包括的な支援体制を円滑に構築・実践できる仕組みをつくるため、社会福祉法に基づき2021年4月より実施されることになった新たな事業

キモ その1。

本業務は、人と制度、人と人の関わり方の現状を捉え直し、「フォーマルなサービスとインフォーマルな力の重層化」を検討・実践。その結果として、地域での人と人との関わりの重層化も目指し、久留米らしい重なり方をデザインすることを目的とする。重層的支援体制整備事業の支援の充実につなげることで、「支え合いが見えるまち」として久留米市が内外で認知されるよう基盤を整えたい。

※市町村が創意工夫をもって包括的な支援体制を円滑に構築・実践できる仕組みをつくるため、社会福祉法に基づき 2021 年 4 月より実施されることになった新たな事業

キモ その2。

【実施内容】

住民や地域の法人、市民活動団体、相談支援機関、行政など、フォーマルとインフォーマルの支援体制やノウハウ、価値観などを融合させる手法を検討・実践。それぞれの役割や対応できる部分、支援の捉え方など「違い」を認め合い、それぞれの強みを生かした体制の在り方を探る。両者の融合を通して、久留米らしい「支え合う文化」の浸透を目指す。

検討・実践に当たっては重層的支援体制整備事業の場や動きを有効に活用すること。

キモ その3。

【事業設計の視点】

●支援が対象者のどの側面に作用しているのかを可視化（支援の在り方の重ね合い）

既存制度やサービスが、本人の力を奪っていないかと問い直し、本人の自立を第一に考える支援の在り方を共に見極める。フォーマル・インフォーマルが、それぞれに何を大切にし、何を支えているのかを明確にし、対象者のどの側面に訴求しているのか、またそれぞれの強みを可視化し、重ね合わせる。

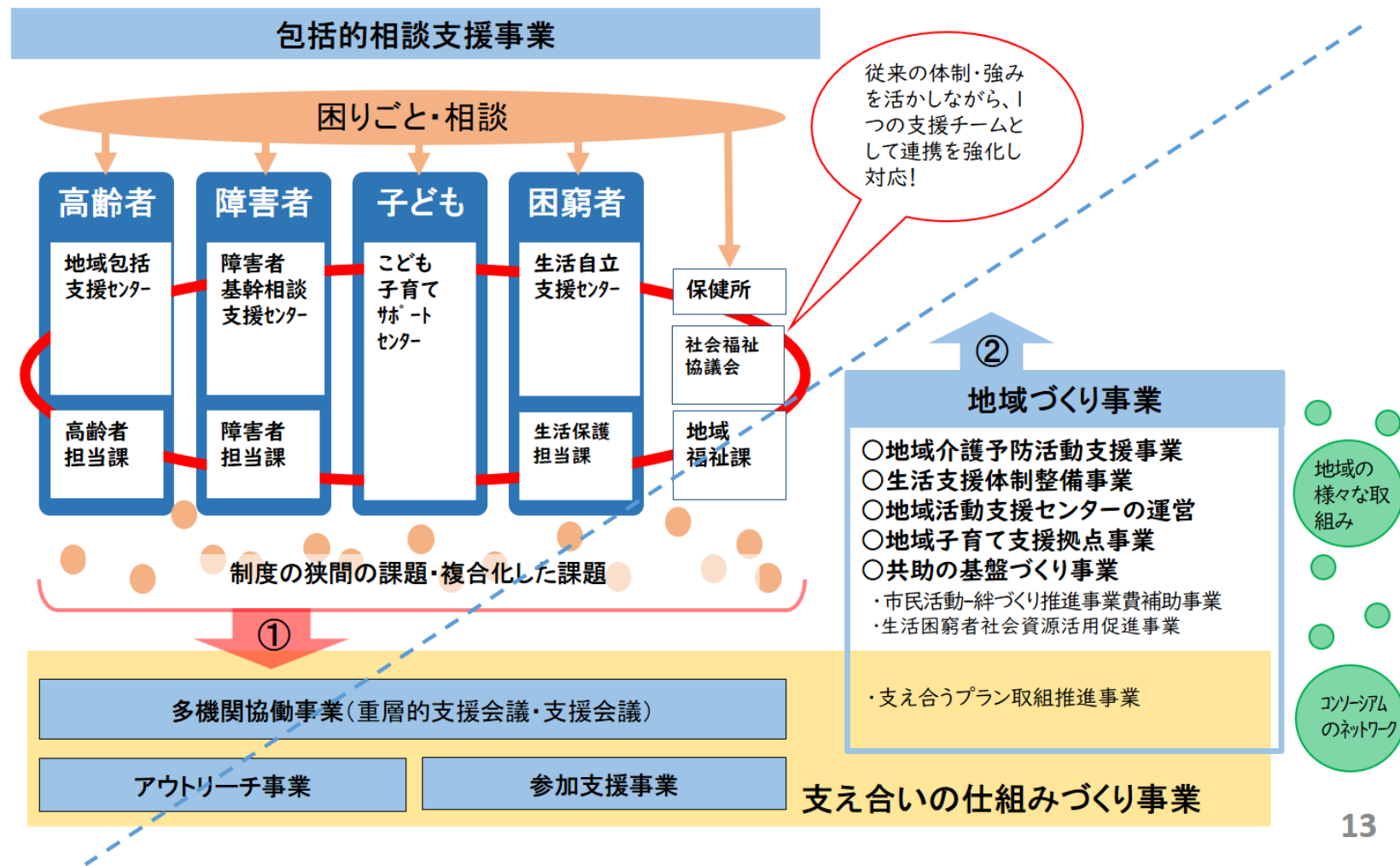
●役割の担い方、雰囲気の違いに改革を（両者の意識の重ね合い）

専門職も地域も行政もサービス利用者も、共に久留米を創る存在だという意識改革。業務として担う役割の部分と、人として感じるものを支援に生かす視点など、互いの長所（責任感—柔軟性、信頼感—親近感など）を感じ合い、それぞれの風土を混ぜ合わせる。

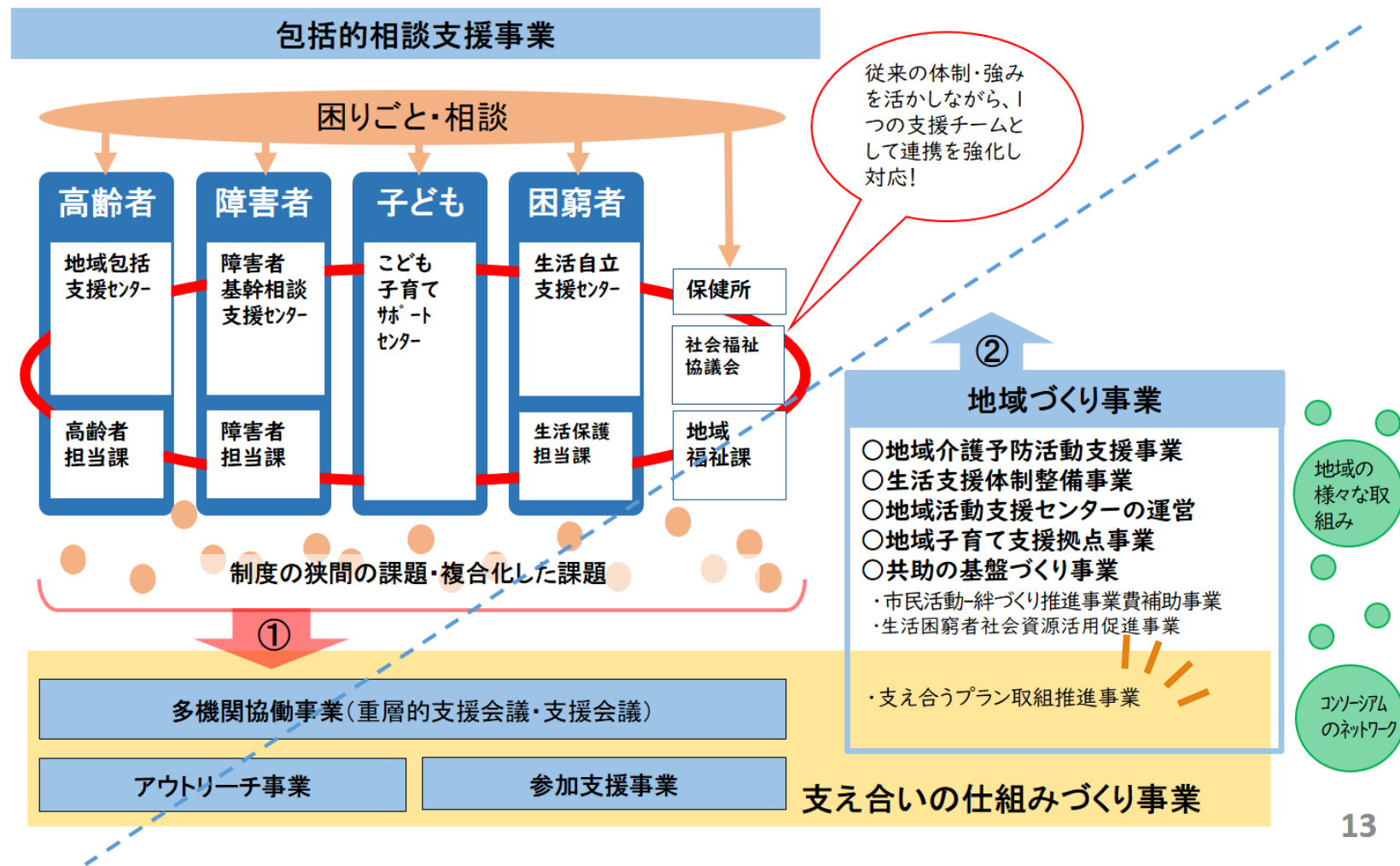
●裏側を見せられる地域・意識づくり（本音を出せる・孤立しにくい環境づくり）

普段はあまり人に出さない・出たくない暮らしの“裏側”を出せるような環境・関係が増える。さらに、そうしていくことで暮らしの悩みが軽減したり好転したりする可能性があることに気付く住民が増える。そのために、人と人との関係性を“あと一歩だけ踏み込む”という感覚を広く共有する。

②久留米の相談支援の重層化



②久留米の相談支援の重層化



重層の仕組みのどこに位置？

地域・住民の力を 生かす手法を模索

⇒制度による支援と住民の関わりの融合を目指します

今年度の事業者

久留米

AU-formal実行委員会

令和4年年度久留米らしい重なり方デザイン事業



コンセプト

「解決する支援」だけでなく
「叶え合う支援」によって
フォーマルとインフォーマルが融合されていく
久留米らしい重なり方のデザイン

AU-CASE project

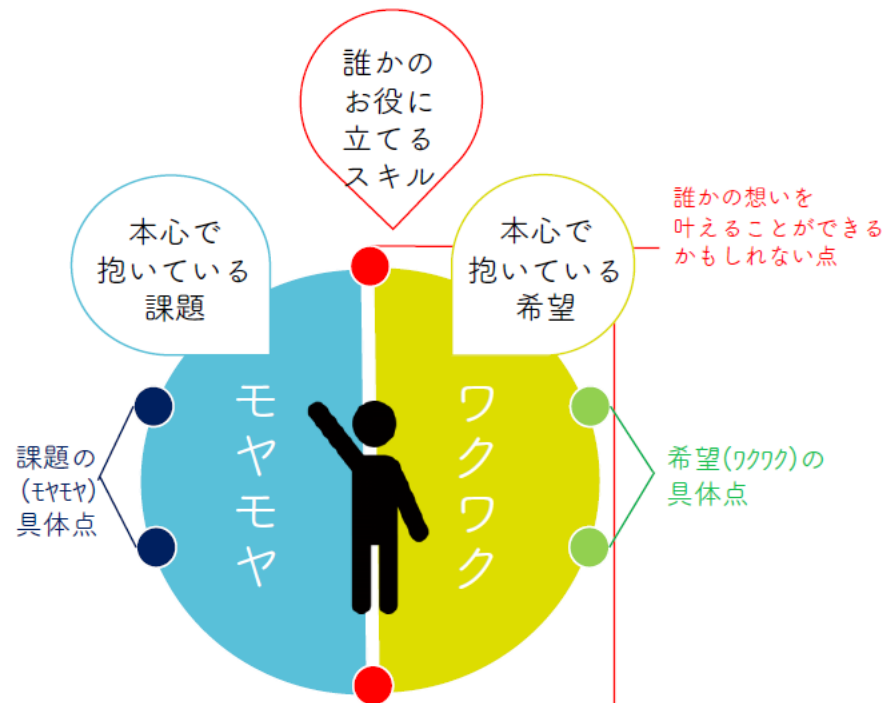
AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)



A. KANAE-AU project -カナエアウ-

人が誰でも必ず持っている支え合う為の3つの点

AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)

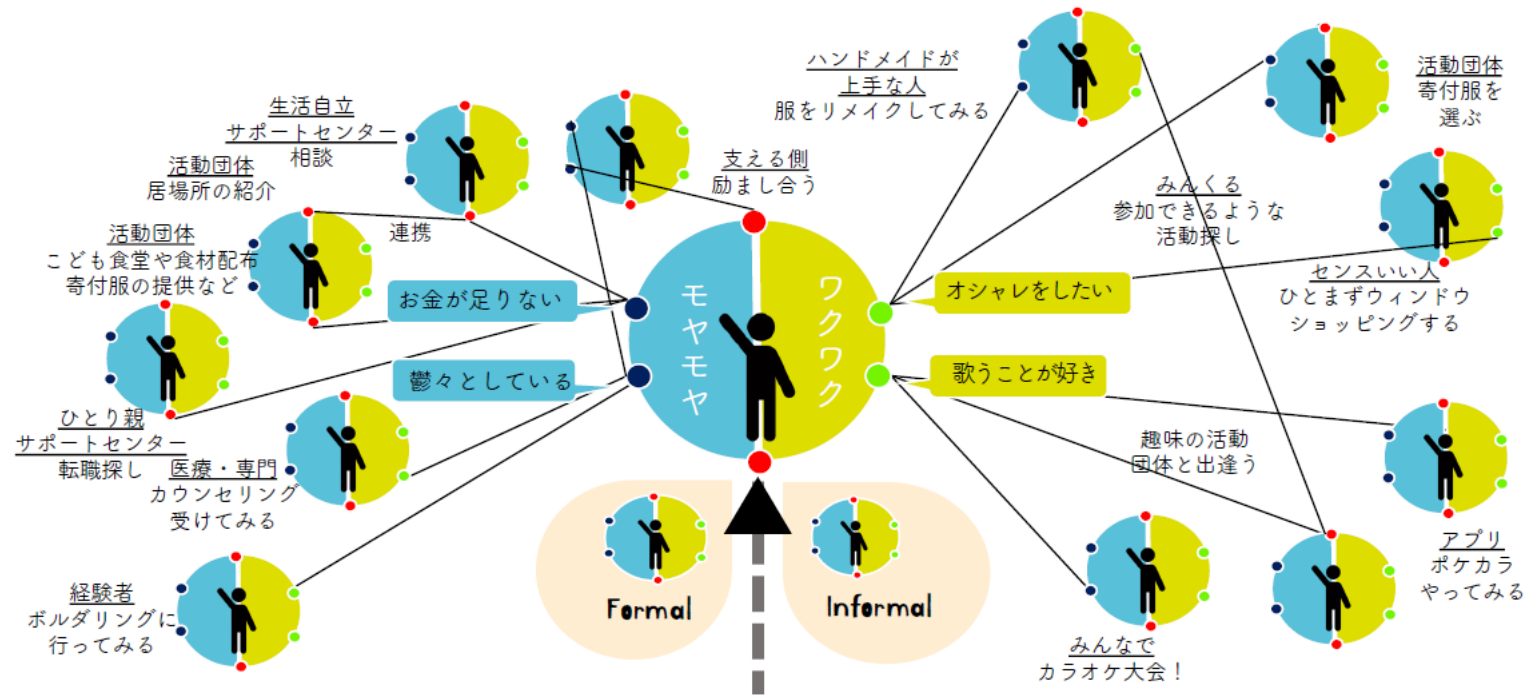


人が誰でも
持っている
3つの点

- 誰かにも想いを叶えることができるかもしれない点を
- 本人が抱いている課題点(不安)
- 本人が抱いている希望点(喜び)

A. KANAE-AU project -カナエアウ-

対象者の課題と希望を叶えていくプロセスで
繋がっていく重層マップ



B. KASANE-AU project -カサネアウ-

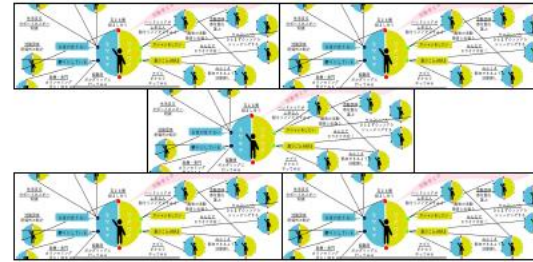
重ね合う検証により

AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)



① 重層マップの構築

重層マップを元に、
関わり方と人数などを把握
5名分のマップの完成と
関係人口の見える化



② アウフォーマルの検証

実践を元にフォーマルと
インフォーマルが融合する為に
必要な視点や価値観、基準などを
導き出していく。定義をつくる。



③ 久留米らしい重なり方デザイン

約10問の5段階チェックシートを
準備し、3人の伴走者が毎月
チェックしていく。
今までの活動からの意識や価値観の
変化の指標とする。



久留米らしい重なり方デザイン

C. TSUTAE-AU project

-ツタエアウ-

伝え合う編集により理解の広がりをつくる。

AU-CASE project 3つの事業(A・B・C)



グッチョ
Guccho

〇〇し合えるまちへ。『とえどつち』『つながりぐっち』な人や取り組みを紹介する地域福祉マガジン

vol.07

「見守り」、「見張り」。どっち？



地域福祉の啓発

久留米市が推進している「地域福祉マガジン『グッチョ』」のメイン企画です。伝えたい「見守り」の人や取り組みを紹介する「見張り」のページ。しかし、ある大学教授から疑問を投げかけられました。

A 実践事業 KANAE-AU
B 検証事業 KASANE-AU

で見えてきた「ける」が増えると「安心」が増える

久留米らしい支援の在り方の可視化。

今後久留米らしい地域福祉を進めていく
為に人が人へ、伝えていける、伝えたく
なる価値観を編集する

グッチョの1コマで→



メンバー・属する分野

社会資源ネットワーク図

「実行委員(個人)⇔所属団体・組織⇔関係するプラットフォーム⇔想定される対象者」

